

令和2年度（令和3年度への繰越分）厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

研究分担報告書（総括）

医療データベースを活用した診療ガイドラインの推奨度決定手法に関する研究 (191A2024)

NCD データ等を利用したエビデンス抽出と診療ガイドラインの推奨作成

研究分担者：三浦 文彦 帝京大学病院外科学 教授

研究要旨

令和3年に改訂版が出版された胃癌診療ガイドラインと肝癌診療ガイドラインについて、NCDと臓器癌登録データを用いた研究論文の引用状況と推奨文のエビデンスレベルと推奨度について調査を行った上でエビデンス形成における役割について検討した。

NCDデータを用いた研究論文の被引用論文数は、胃癌と肝癌2編ずつでいずれも新規に引用がなされた。ガイドラインの課題を解決するような研究、ガイドラインの影響を検証する研究も開始されていた。

A. 研究目的

NCDとNCDへの実装が進んでいる臓器癌登録の、癌診療ガイドラインのエビデンス形成における役割を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

令和3年に改訂版が出版された胃癌診療ガイドラインと肝癌診療ガイドラインについて、NCDと臓器癌登録データを用いた研究論文の引用状況と推奨文のエビデンスレベルと推奨度について調査を行った上でエビデンス形成における役割について検討した。さらには現在進行中の研究にも調査を加えた。

C. 研究結果

NCDデータを用いた研究論文の被引用論文数は、胃癌と肝癌2編ずつでいずれも新規に引用がなされた。被引用回数は胃癌が3回、肝癌が2回だった。引用したCQ数は、胃癌が2、肝癌が2で、胃癌ではいずれも新規に設定されたCQだった。癌登録データを用いた研究論文の被引用回数は、胃癌が1編、肝癌が10編で、胃癌の1編、肝癌の3編が新規に引用がなされた。被引用回数は、胃癌が1回、肝癌が15回だった。引用したCQ数は、胃癌が1、肝癌が8で、胃癌は新規に設定されたCQだった。

ガイドラインの課題を解決するような研究や、ガイドラインの影響を検証する研究も開始されていた。

D. 考察

NCDは疾患固有の詳細なデータが少なく長期予後も登録されないため、診療ガイドラインのエビデンス形成における役割は限定的となっていると考えられた。NCDに実装された癌登録データが蓄積されることにより長期予後の評価も進められると考えられる。

E. 結論

NCD データを用いた研究論文は、診療ガイドラインのエビデンス形成における役割は限定的だった。ガイドラインと NCD・癌登録データを用いた研究が相補的に発展していくことが期待される。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 谷口桂三, 藤本大裕, 山崎健司, 三浦文彦, 松谷哲行, 小林宏寿. ロボット支援下噴門側胃切除後におけるダブルトラクト再建術 Twisted Double Tract Reconstruction(TDTR) の手技. 手術 75:1591-1596, 2021

2) 三浦文彦, 谷口桂三, 松谷哲行, 小林宏寿.【肝・胆道系症候群(第3版)-その他の肝・胆道系疾患を含めて-肝外胆道編】肝外胆管(胆管、胆囊管、総胆管) 先天異常 副肝外胆管.日本臨床(00別冊肝・胆道系症候群 III: 112-115, 2021

2. 学会発表

- 1) 三浦文彦 診療ガイドラインにおける NCD・癌登録データを用いた研究の意義 第 58 回日本腹部救急医学会総会 2022.3.24

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし。
2. 実用新案登録
該当なし。
3. その他
該当なし。